# 令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立桜宮小学校の結果

## ～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

| | |
|---|---|
| 区　　名 | 都島区 |
| 学　校　名 | 大阪市立桜宮小学校 |
| 学 校 長 名 | 岩井　伸夫 |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和８年４月に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### １　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### ２　調査内容

(1)　教科に関する調査

・国語

・算数

(2)　質問調査

・児童に対する調査

・学校に対する調査

### ３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童

・大阪市立桜宮小学校では、第６学年　46名

# 令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立桜宮小学校の結果概要

令和8年度全国学力・学習状況調査では、国語の平均正答率は63%となり、大阪市を4ポイント、全国を2.1ポイント上回った。算数の平均正答率は56%で、大阪市と同程度、全国を0.4ポイント下回る結果となった。一方、平均無解答率は国語・算数ともに0.8%で、全国平均の国語3.4%、算数3.2%を大きく下回っており、難しい問題に対しても最後まで粘り強く取り組もうとする児童の姿がうかがえる。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

領域別に見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」で全国平均を上回った。中でも「情報の扱い方に関する事項」は全国を4.2ポイント、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は3.9ポイント上回っており、情報を適切に捉える力や、言葉の特徴を理解して活用する力が育ってきている。

また、「書くこと」では全国を3.9ポイント上回っており、自分の考えを整理し、目的や意図に応じた文章に表現する力についても成果が見られた。これは、日ごろから自分の考えを文章にまとめたり、相手に伝わるように表現を工夫して書いたりする学習を積み重ねてきた結果である。さらに伸ばしていくために、根拠を明確にしながら自分の考えを筋道立てて書く活動を継続していきたい。

その一方で、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は全国平均をわずかに下回った。文章全体の内容や構成を捉える力を高めるとともに、必要な情報を取り出し、それらを関連付けて考える学習を一層充実させていく必要がある。

【算数】

「測定」では全国平均を4.5ポイント上回り、長さや時間などの量について理解し、適切に活用する力に成果が見られた。量の大きさを捉え、日常生活の場面と関連付けながら考える力が育ってきていると考えられる。また、「数と計算」についても全国平均を0.6ポイント上回っており、基礎的、基本的な計算の力が身についてきていることが分かる。これらは、具体物を用いた活動や既習事項を活用して問題を解決する学習を積み重ねてきた成果である。

一方、「図形」は全国平均を3.7ポイント、「変化と関係」は5.6ポイント、「データの活用」は1.3ポイント下回った。特に課題が見られた「変化と関係」については、二つの数量の関係に着目し、その関係を図や式、言葉などを用いて捉える力を伸ばしていく必要がある。また「図形」についても、図形の性質や構成要素に着目しながら考える力を育てていきたい。今後は、低・中学年から数量や図形の関係を意識した学習を積み重ねるとともに、自分の考えを表現し、友だちと交流する活動を一層充実させていきたい。

質問調査より

「学校に行くのは楽しい」と回答した児童は92.3%、「友達関係に満足している」は98.1%と、大阪市・全国を上回っており、児童が安心して楽しく学校生活を送れていることがうかがえる。また、「自分にはよいところがある」の肯定的回答も92.3%と高く、自己肯定感の高さが見られる。これは、道徳教育の推進に加え、縦割り班活動を軸とした異学年交流や、授業における話し合い活動の充実を通して、互いのよさを認め合う関係づくりを進めてきた成果であると考えられる。「いじめはどんな理由があってもいけない」についても92.3%が「当てはまる」と回答しており、今後も道徳教育や人権教育を充実させ、100%をめざしていく。

読書についても、大阪市・全国と比較して読書時間が長い傾向が見られる。主幹司書と連携し、各教科の学習内容に関連した図書に触れる機会を設けるとともに、地域の図書ボランティアとの連携や、保幼こ小連携を通した読書活動を継続してきた成果が表れていると考えられる。

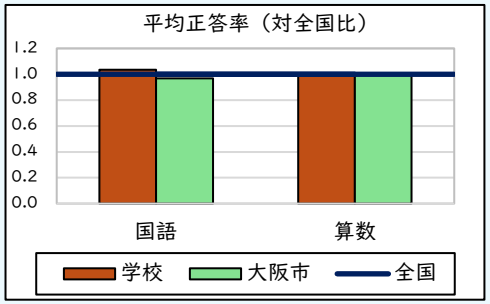
## 今後の取組（アクションプラン）

これまで体育科の研究を通して培ってきた、友だちと関わり、教え合い、互いのよさを認め合う学びを生かし、道徳教育を中心とした取組へとさらに発展させる。また、縦割り班活動や保幼こ小連携・接続による多様な人との関わり、主幹学校司書や地域の図書ボランティアと連携した読書活動を充実させる。これらの取組を通して、自分のよさを実感するとともに、相手の立場や思いを大切にし、互いに認め合いながらよりよい人間関係を築くことのできる子どもを育成する。

# 令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要

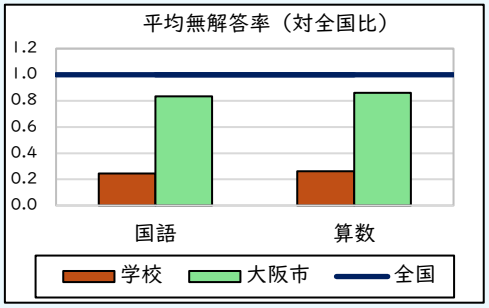
## 平均正答率（%）

| | 国語 | 算数 |
|---|---|---|
| 学校 | 63 | 56 |
| 大阪市 | 59 | 56 |
| 全国 | 60.9 | 56.4 |



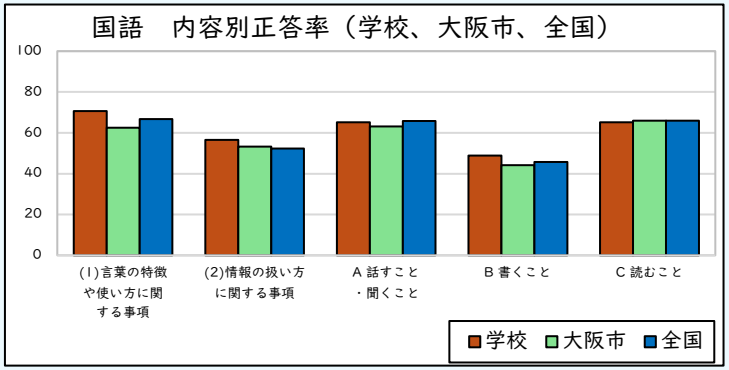

## 平均無解答率（%）

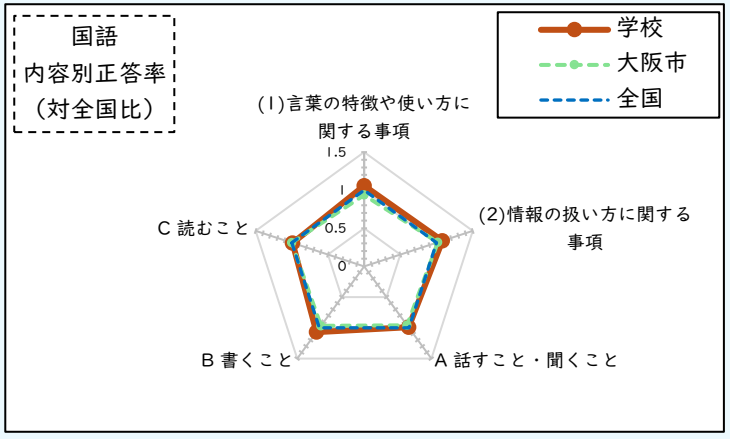
| | 国語 | 算数 |
|---|---|---|
| 学校 | 0.8 | 0.8 |
| 大阪市 | 2.8 | 2.8 |
| 全国 | 3.4 | 3.2 |




## 【国語】内容別正答率

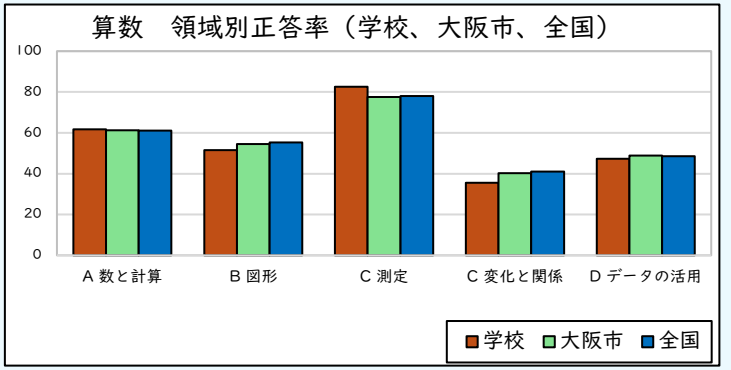
| 学習指導要領の内容 | 対象問題数（問） | 平均正答率（%） 学校 | 大阪市 | 全国 |
|---|---|---|---|---|
| (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | 4 | 70.7 | 62.5 | 66.8 |
| (2)情報の扱い方に関する事項 | 2 | 56.5 | 53.2 | 52.3 |
| (3)我が国の言語文化に関する事項 | 0 | － | － | － |
| A 話すこと・聞くこと | 3 | 65.2 | 63.1 | 65.8 |
| B 書くこと | 2 | 48.9 | 44.2 | 45.7 |
| C 読むこと | 2 | 65.2 | 66.0 | 65.9 |

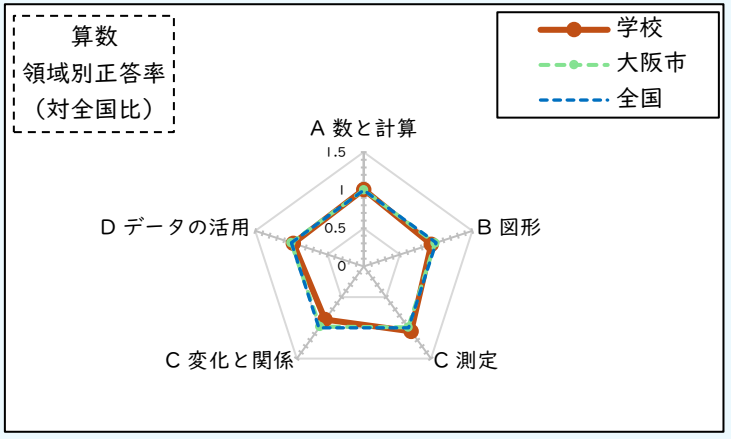



## 【算数】領域別正答率

| 学習指導要領の領域 | 対象問題数（問） | 平均正答率（%） 学校 | 大阪市 | 全国 |
|---|---|---|---|---|
| A 数と計算 | 8 | 61.7 | 61.2 | 61.1 |
| B 図形 | 4 | 51.6 | 54.5 | 55.3 |
| C 測定 | 1 | 82.6 | 77.5 | 78.1 |
| C 変化と関係 | 3 | 35.5 | 40.3 | 41.1 |
| D データの活用 | 4 | 47.3 | 48.8 | 48.6 |

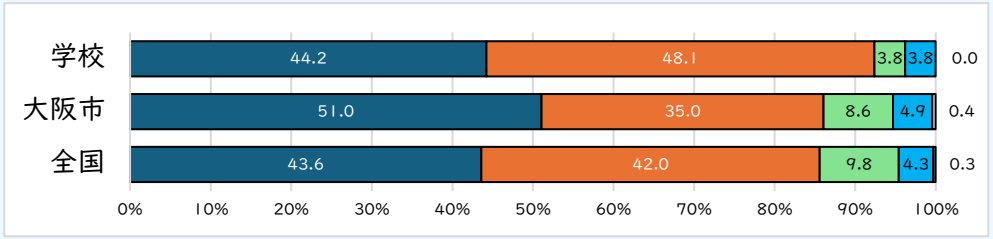


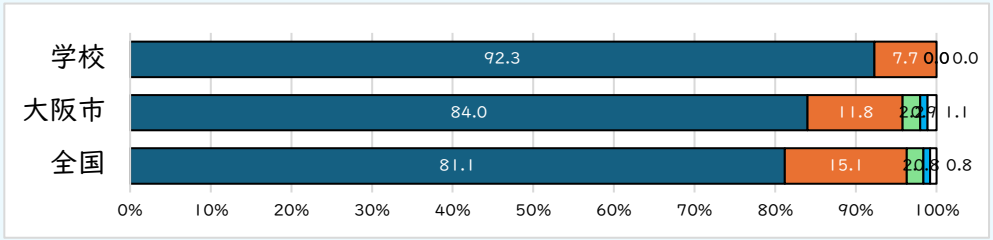



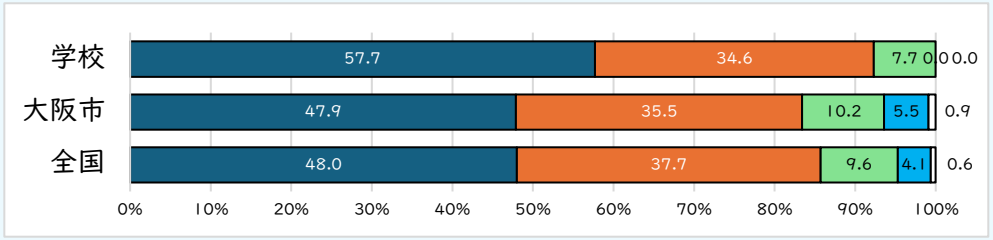
# 令和８年度　全国学力・学習状況調査　児童質問調査より

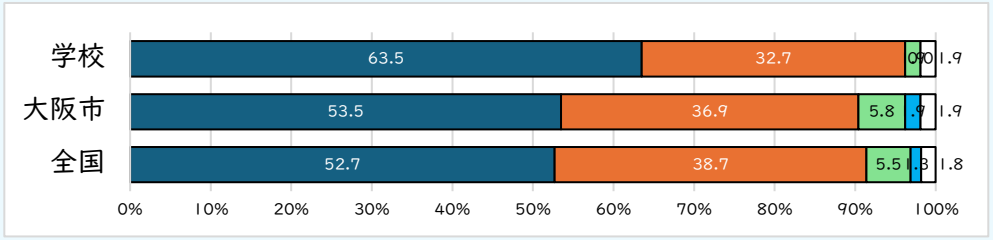
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

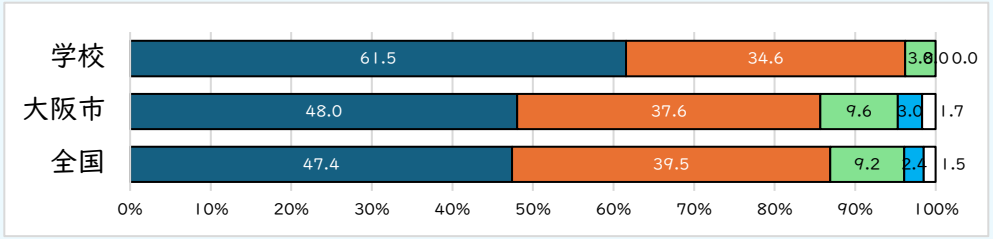
| 質問番号 | 質問事項 |
|---|---|
| （８） | 自分には、よいところがあると思いますか |
| （１２） | いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか |
| （１５） | 学校に行くのは楽しいと思いますか |
| （４６） | 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか |
| （５１） | 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか |




1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

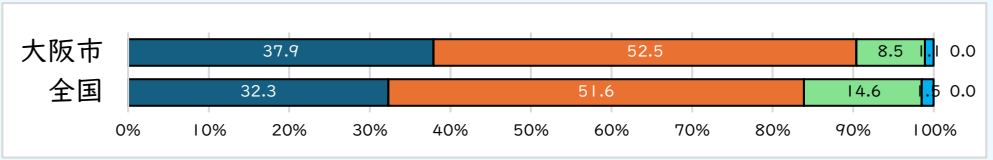
# 令和８年度全国学力・学習状況調査　学校質問調査より

1 2 3 4 5 6 7 その他・無回答

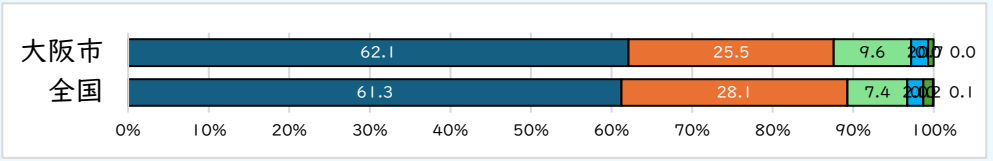
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

| 質問番号 | 質問事項 |
|---|---|
| （８） | 調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか |
| （１５） | 前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか |
| （１９） | 学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか |
| （２１） | 教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していますか |
| （２９） | 調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか |

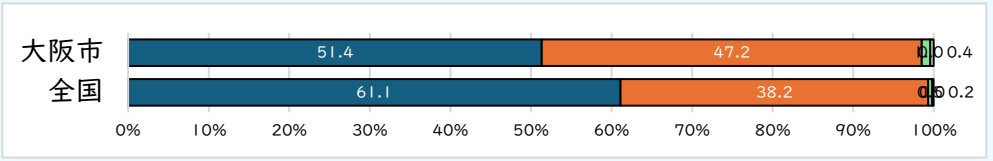
【学校の回答】　１　そう思う



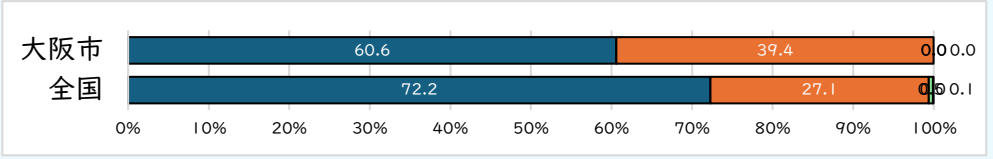

【学校の回答】　１　週に１回程度、または、それ以上行った



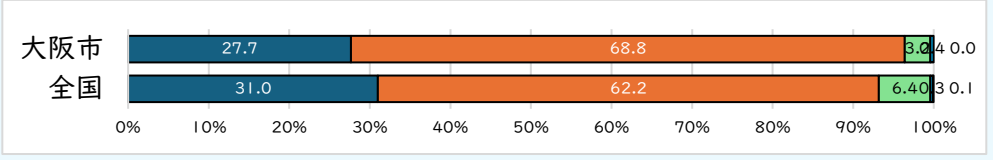

【学校の回答】　１　そう思う




【学校の回答】　１　そう思う




【学校の回答】　１　そう思う




1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

1 週に１回程度、または、それ以上行った
2 月に数回程度行った
3 学期に数回程度行った
4 年に数回程度行った
5 行わなかった
6 特に問題を抱えていなかった

1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない